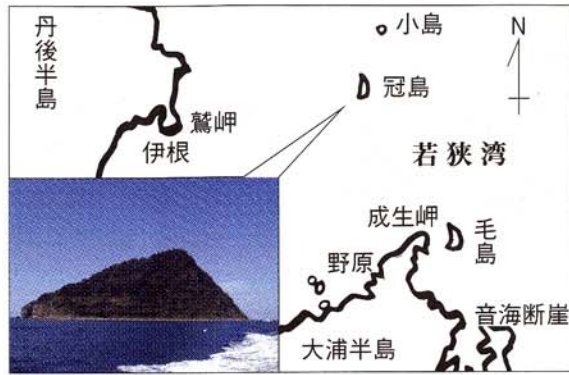


海、山、人の多様な生態系を守ろう!!

冠島の海、ダイナミックさと繊細さの魅力に溢れる



インバナはサンゴに近い動物で、プランクトンを食べている



ツノクラゲ。ツノはあるけれど、刺されることはないそうだ



放り投げた海藻に群がるマアジ



海の中の急斜面を駆け降りるヤドカリ



正面切って挨拶してくるインダイ君、今年もよろしく



ブリの群れ。ブリは正月にふさわしい出世魚



カイメンのすきまのサラサエビはおしゃれだ



一斉に上を向いてエサを待つメバル



カイメンの上のカサゴも華麗だ



文句でもありそうなサラサカジカ



歌でも唄いたげなコケギンボ

冠島周辺のダイビングの最大の魅力は、海がもつダイナミックさと繊細さを一度に体感できることにある。不思議な形のクラゲに目を奪われながら海に入れば、子どもの頃に絵本で見た竜宮城がそこにある。海底のカイメンのすきまに、あでやかなサラサエビを見つけたすぐそ

のあとで、ブリの大群に囲まれることも珍しくない。冠島でブリが釣れる、タイが釣れると人は言う。しかしブリやタイは霞を食べ生きていくわけではなく、餌になる小魚や小エビ、さらにこれらの餌となる小動物が豊富であるから生きてゆける。だ

から、冠島のブリを守りたければ、生態系全体を含めて管理しなければ意味がない。最近、大江山周辺が新たに国定公園の指定を受けるとともに、冠島周辺は若狭湾国定公園内の特別保護地区に昇格したそう。山の豊かさ、海の豊かさ、

ついでに言えば人間社会の豊かさ、大切なのはつながりと多様性だと思う。そんなことを再認識させてくれる冠島。一部の釣り師やダイバーだけが愉しめる秘境としてではなく、地域の人々に共有の半永久的財産として、その豊かさを守ってゆきたいものだ。(文・写真)

絵本の竜宮城の世界を見る

ブリ、エビ、クラゲ、ヤドカリ…

冠島周辺で撮影



京都大学フィールド科学教育研究センター・舞鶴水産実験所准教授 益田 玲爾